

## ◎活動状況

- ・「ふくしま森林づくり塾」開催
- ・第1回農業普及推進懇談会開催
- ・平成20年度第1回いわき地方鳥獣害対策研修会開催
- ・「ふるさと誘致と連携した地域産品づくり事業」大豆の収穫作業
- ・「食の楽校」脱穀作業
- ・平成20年度第2回食品表示研修会開催
- ・高病原性鳥インフルエンザ防疫対策研修会開催
- ・園芸産地見学会(園芸作物栽培見学ツアー)開催
- ・水田作大豆・そば作付拡大推進中!
- ・森林整備交流会開催

ふくしま  
食と農の絆づくり運動ニュース



(いわき地方推進本部)

## ◎トピックス

- ・県立いわき養護学校食育講座
- ・元気がでる講演会「こうすっぺ、おらほの集落」開催
- ・第2回小久地区収穫感謝祭開催

# 活動状況

## ○「ふくしま森林づくり塾」を開催しました

「ふくしま森林づくり塾」は、林業を取り巻く社会・経済情勢の変化等により、森林所有者が森林管理技術や知識を習得する機会が減少するなか、一方では都市部において田舎暮らしや森林との関わりに関心を持ち林業を志す人が現れるなど、県民の意識が多様化していることを受け、森林・林業に関する基礎知識と技術を習得することを目的に昨年からのスタートしました。

2年目を迎えた今年は、5名の市民の方が応募され、9月から11月にかけて3回開催しました。

第1回目は、9月30日(火)に行われ、農林事務所職員による森林林業全般に関する講義が行われた後、三和町で林業を営む県指導林家の岡部義邦氏による、「私の林業経営」と題した講義が行われました。

父親と共に炭を焼いて関東方面へ出荷した苦労話や、地域の活性化を図るため自らの山を開放して仲間達と始めた森の情報発信基地「のんぼけ」(→大自然の中で、のんびり、ぼけ~と過ごして心身のリフレッシュを図るの意)を設置したところ、全国放送されて大反響を呼んだ話などに、受講者は熱心に聞き入っていました。

第2回目は、11月27日(木)に三和町で林業を中心に稲作・和牛の飼育・大豆栽培など複合経営を営む県指導林家の田子英司氏を講師として、氏の所有する森林内で選木、伐倒、玉切りなど一連の作業を行って間伐の方法等について学び、森林整備に対する理解を深めました。

第3回目の11月28日(金)には、県林業普及指導協力員の荒川仁弥氏を講師として、いわき材加工センターの製材乾燥現場といわきプレカットの木材加工現場の見学も交えながら、川上から産出された木材が川下で建材になる過程について学びました。その後、実際に両工場加工された部材を使った住宅の建築現場を見学し、在来工法(軸組工法)について学習しました。今回受講された5名の皆さんには、塾で学んだ森林の大切さや木の素晴らしさについて、さらに多くの人に伝えていただければ幸いです。



## ○第1回農業普及推進懇談会を開催しました

10月28日(火)、県いわき合同庁舎において、いわき市をはじめとする関係機関・団体や農業者等を構成員とする第1回農業普及推進懇談会を開催しました。

懇談会では、平成20年度普及指導計画、上半期における活動経過・実績・課題等について説明し、下半期の効果的な活動展開に向けて提言をいただいた。今後の活動展開に向けて、関係機関・団体や農業者等



くとともに、今後の地域農業振興について意見交換を行いました。

## ○平成20年度第1回いわき地方鳥獣害対策研修会を開催しました

いわき地方では、イノシシによる農作物の被害が深刻になっており、これまでの漁網等のネットに比べて有効な対策として電気柵の設置が目立ってきております。

電気柵の正しい知識を普及し、より有効なイノシシ対策とするため、11月6日(木)、上永井公民館(いわき市三和町永井)において、平成20年度第1回いわき地方鳥獣害対策研修会を開催しました。

当日は「獣害対策の考え方」「イノシシの習性と電気柵の設置方法について」と題して、福島県農業総合センターの担当者が、イノシシの生態や被害防止対策などについて、わかりやすく説明しました。

現場でアドバイスを受けながら、参加者は電気柵の効果を実感したようでした。

今後は、この研修会の成果を活かした展示ほやモデル地区を設置することにしております。

## ○「ふるさと誘致と連携した地域産品づくり事業」の大豆の収穫作業を行いました

11月8日(土)、いわき市田人町貝泊地内で、いわき地方振興局といわき農林事務所の主催による、「ふるさと誘致と連携した地域産品づくり事業」の大豆の収穫作業を行いました。

まず、地元貝泊コイコイ倶楽部の蛭田会長から挨拶を頂いた後、農林事務所のスタッフから作業上の注意について、説明がありました。

その後、前回(定植作業)と同様に参加者は2箇所の畑に分かれて、各組のリーダーになった地元農業者の指導に従いながら、根っこごと大豆を引き抜き、はせがけ作業を行いました。

今年は8月末の大雨により、大豆の株が幾分倒伏したものの、無事240kgの収量を確保することができました。

今後は、来年の1月17日(土)に豆腐、味噌の加工体験を予定しております。



## ○「食の楽校」で脱穀作業を行いました

11月12日(水)、いわき市立渡辺小学校の5年生24名とともに、3週間前に刈り取りを行い、天日乾燥させていたもち米「まんげつ」の脱穀作業を行いました。

はじめに、当農林事務所の農業普及指導員が、稲刈りや脱穀に使用する道具の移り変わり、脱穀してから白米になるまでについて、説明を行いました。

その後、地元の方に手ほどきを受けながら、「こき箸」や「千歯こき」を使った昔ながらの脱穀作業を体験しました。千歯こきでの脱穀では、ただ力任せに引っ張るだけではうまくいかないことなどを、実際に体験することにより学ぶことができました。

残った稲は、ハーベスタを使って脱穀を行い、児童たちは機械の便利さに感心しつつ、稲運びや藁運びを熱心に手伝っていました。

渡辺小学校の学習田は今年も豊作で、12袋(約300kg)の収穫がありました。今後、このもち米を使って収穫祭を開催し、「もちつき」と「もちふるまい」を行うことにしています。



## ○平成20年度第2回食品表示研修会を開催しました

11月13日(木)、県いわき合同庁舎で平成20年度第2回食品表示研修会が行われまし

た。  
この研修会は、JAS法及び食品衛生法に加え、景品表示法に基づく食品表示に関する理解の促進を図る目的で県内5か所で開催されたもので、いわき会場がそのトップを切ることとなりました。  
当日は食品販売・製造・加工業者、消費者等約50名が参加し、いわき農林事務所五十嵐企画部長によるあいさつの後、県農産物安全課職員によるJAS法に基づく加工食品の表示についての説明、いわき市保健所職員による食品衛生法に基づく食品表示についての説明及び県消費生活課職員による景品表示法の概要についての説明があり、それぞれ表示のポイントや違反又は不当表示の事例などを交えながら各法に基づく表示方法の解説を行いました。

この他に、参加者は演習問題として加工食品の表示作成と表示の間違い探しにも各自取り組むことで、食品表示に関する理解を深めました。

## ○高病原性鳥インフルエンザ防疫対策研修会を開催しました

11月14日(金)、高病原性鳥インフルエンザ防疫対策研修会を県及びいわき市の関係機関の職員53名参加のもと、いわき合同庁舎で開催しました。

平成18年度から毎年開催しており、研修会では国内外での鳥インフルエンザの発生状況や、万が一発生した場合のいわき地方対策本部における初動体制の確認のほか、いわき市保健所の保健師及び県いわき家畜保健衛生所の獣医師の実務指導により防疫対策に従事するために必要な防護服の着脱や鶏の殺処分方法等について実演を行いました。

参加者は、この研修会を通じて、高病原性鳥インフルエンザの防疫対策に対する理解を深めるとともに、関係機関のさらなる連携強化を図ることができました。



## ○園芸産地見学会(園芸作物栽培見学ツアー)を開催しました

11月16日(日)、いわき地方中山間地域園芸産地帰農者等支援事業として「園芸産地見学会」を開催しました。

定年退職された方や退職を予定されている方で、園芸作物の栽培に興味のある方を対象に募集したところ、県内外から15名の参加がありました。

当日は、貸切バスにより、JAいわき市の直売所と「ネギ、ブロッコリー、イチゴ」の栽培ほ場を見学し、ブロッコリー栽培ほ場では参加者全員、収穫体験を行いました。

各ほ場では参加者から多くの質問が出され、各農家の方より栽培方法や苦労話など具体的な説明をいただきました。

今後、本格的に農業に取り組みたいと考えている参加者が多く、「残りの人生を農業に捧げたい」「実際の体験談を聞くことができ有意義だった」との意見が出されるとともに、「今後も他の作物を見学したい」「実際の作業現場も見学したい」との要望が出され、園芸作物の栽培に理解を深めることができました。



## ○水田作大豆・そば作付拡大推進中！

いわき農林事務所農業振興普及部では関係機関・団体等と連携し、地域農業水田ビジョンの実現に向けて集落営農の機能を活かし、水稻の省力低コスト化と土地利用型作物の振興を推進しています。大豆・そばについては、高品質生産技術の普及と団地化を支援し産地の確立を目指して普及指導活動を展開中です。

その活動の中で、11月19日(水)に本年度新たに導入された大豆色彩選別機の実演と、大豆とそばの作付面積の拡大に向けた意見交換を行いました。

参加者は、大豆栽培の技術向上と団地化で取り組んでいる地区どうしのさらなる連携強化が必要である等、活発な意見交換を行い、高品質大豆生産とコスト低減による安定経営の実現に向けて決意を新たにしています。

また、永井地区でのそば生産と、県産大豆品種の「合津のかおり」について研修、討

また、水井地区でのとは主産と、県オリジナル品種の「雲津のがおり」について研修し、試食も行ったところ、のどごしが良く商品性が高い、との意見が多く聞かれました。今後の普及拡大が期待されます。

## ○森林整備交流会を開催しました

森林環境税による森林整備の推進に対する理解を図るため、11月22日(土)、いわき農林事務所主催による「水源地域の森林整備交流会」を川前町小白井地内の森林において開催したところ、一般住民や森林ボランティアなどおよそ20名の参加がありました。はじめに、間伐を行った箇所と未実施箇所を比較見学した後、森林整備を体験していただくため、スギ林で間伐を実施しました。

昼食後、農林事務所職員が森林環境税の概要といわき地方での取り組み状況及び今回見学場所となった森林の概要などについて説明しました。参加者からは、森林環境税による森林整備の実施箇所や整備面積などについて質問が出されました。

その後、木製品の需要拡大が森林整備にも繋がることを説明し、木が持っている特長を再認識していただくため、鬼ヶ城の生活体験館で、スギ間伐材を用いたプランターキットの組み立てを行いました。

川上と川下の交流により、間伐などの森林整備に対する理解と積極的な取り組みが推進されることを期待します。



## トピックス

## ○県立いわき養護学校で食育講座が行われました

11月6日(木)、県立いわき養護学校において、中学部3年生の食育講座として、料理教室が行われました。

講師を務められたのは、いわき地方における食育や「食と農」に関する学習機会などに、当農林事務所でもボランティアとして御協力をいただいている北尾博水氏(フランス料理シェフ)です。

「食育講座 実践編」として、今年、中学部3年生が自分たちで栽培した小豆を使って“あずきプリン”の調理を行いました。生徒たちは、プリンカップにバターをぬったり、卵を割って他の材料と混ぜ合わせたりと、調理作業に積極的に取り組んでいました。

授業の最後には、作ったプリンをみんなで試食するとともに、調理体験の感想をお互いに述べ合いました。

料理教室をする前には「小豆は嫌い」と言っていた生徒もきれいに食べきってしまうなど、自分で作ることの大切さが感じられる活動でした。



## ○元気がでる講演会「こうすっぺ、おらほの集落」が開催されました

11月26日(水)、いわき文化芸術交流館Alios(アリオス)において、「元気がでる講演会」がいわき市地域担い手育成総合総合支援協議会の主催で開催されました。

本年は「こうすっぺ、おらほの集落」と題し、志村尚一氏の講演とそれに合わせた「劇団ぜんとうようくらぶ」のミュージカルが演じられ、認定農業者、集落営農組織、JA女性部など約200名の観客が会場を埋めました。

本年は、集落営農の様々な疑問や問題について、志村氏が事例を交えながら講演し、それに合わせた歌と踊りが劇団によって披露され、会場の笑い等を誘っていました。

聴講した参加者からは、「わかりやすかった」との声があり、集落営農について理解を深め



た講演会となりました。

## ○第2回小久地区収穫感謝祭が開催されました

小久地区では本年8月に「小久地区営農改善組合」が設立され、いわき市内で10番目の集落営農組織が活動を始めています。

この小久地区営農改善組合主催により11月30日(日)、小久消防詰め所敷地内で、第2回小久地区収穫感謝祭が開催されました。

収穫感謝祭の運営は、小久地区営農改善組合役員のほか地元の有志によって行われ、昨年以上の来場者となりました。

当日は、風が強い晩秋の秋晴れでしたが、「常磐湯けむり太鼓」のオープニングの後、地元小久産の新米・野菜類の直売をはじめ、焼き芋、じゅうねん団子等の加工品類の販売、「とん汁」のサービスや「もちつき大会」等のイベントが行われ、好評を博していました。

地区一丸となって行われたこの行事は、本年の収穫への感謝とこれからの集落営農の進展にとって大事な一日となりました。



◀もどる

すすむ▶